稲穂

小樽市立稲穂小学校
学校だより　No.6
令和　4年　9月15日
文責　校長　大坂　充

【学校の教育目標】
りこうで
たっしゃで
ほがらかな
稲穂の子

稲穂小 WEB

キャプテンシー

※キャプテンとしてチームを統率する力、指導力

校長　大坂　充

今年の夏の甲子園は、仙台育英高校の優勝で幕を下ろしました。深紅の優勝旗が初めて「白川の関」を越え、東北六県の悲願が達成されたと大きな話題になりました。

数々の名勝負が生まれた今大会での中で、印象深いシーンがありました。それは、仙台育英高校の背番号13番のキャプテン・佐藤悠斗選手の振る舞いでした。決勝は途中までは0対0で進む好勝負でしたが、最終的には8対1と大差がつきゲームセット。お互いに礼をした後、仙台育英の選手はセンター方向に向かって並び、校旗掲揚と校歌斉唱。負けた下関国際は、ベンチ前に並び、その様子を見ていました。仙台育英高校の選手は、校歌が終わるとキャプテンの合図で一礼し、アルプススタンドの応援席に向かって走ります。応援してくれたみんなと喜びを分かち合うためです。仙台育英の選手がアルプススタンドの前で整列したとき、一人だけ遅れて並ぶ選手がいました。キャプテンの佐藤選手でした。どうしたのかと思っていたら、別のカメラが彼の様子を映していました。校歌が終わり、全員がアルプスに向かってダッシュし始めたとき、彼は一人3塁側の下関国際のベンチに向かい、深々と礼をしていたのです。今日まで、ともに戦い抜いてきた仲間として、勝者敗者関係なく相手に敬意を払う素晴らしい姿がそこにありました。私はそこに、最高のキャプテンシーを感じました。そんな背番号13のキャプテンがいる仙台育英だからこそ、深紅の優勝旗を手にすることができたのかも知れません。

同じような場面が、本校の修学旅行でも見られました。8月31日、9月1日に行われた今年の修学旅行は、1日目は、どこに行っても雨、雨、雨の修学旅行でした。それでも、雨なら雨を楽しむ旅にしようと、工夫しながら見学し、ようやく登別温泉に着きました。以前はホテルの広いロビーに全員が並び、到着式を行うところですが、今はできません。他の児童が部屋へと進む中、実行委員の2人がホテルの方と向き合い挨拶をします。同じように、2日目の朝も、他の児童がバスに乗り込む中、代表の2人はホテルの方と向き合い、稲穂小学校6年生の代表として、お礼の言葉を述べました。それは、あくまでも自分の言葉で、お世話になった皆さんへの心からのお礼や、楽しかった一晩の思い出を大切にしたいとの熱い思いが詰まった挨拶でした。私はそこに、甲子園と変わらないキャプテンシーを感じました。そのような姿は他にも見られました。一晩お世話になったお礼のメッセージを部屋に残していった子、毎日自分たちの安全を見守ってくれている「安全見守り隊」の方に、「修学旅行のお土産です。」と言ってお菓子を手渡した子など、素敵なキャプテンシーが随所に見られました。そう考えると、6年生全体が稲穂小学校にとってのキャプテンシーを発揮し、学校全体を盛り上げ、良い方向に導いていっているように感じられます。

新型コロナウイルス感染症や雨の影響が全くなかったかといえばウソになりますが、どんな状況にあっても、それを受け入れた上で、自分たちがその時できる最高のパフォーマンスを目指して真剣に取り組む姿、今後の生活の中でもきっと生きると確信した修学旅行でした。

R4　3つの重点「わかったことや思ったことを伝えることができる」
「自分の体を知り、体力向上や健康に気を付ける」「よりよいものを作り出すために協働できる」

市制執行 100 周年記念事業

子どもたちが選ぶ「ふるさと１００選」

小樽市が市制 100 周年を迎えたことを記念して、本市の児童生徒が、校区にある自分のおすすめの場所について話し合い、それを伝え合う機会を通して、ふるさと小樽のよさに気付き、郷土愛を育むことを目的とした「子どもたちが選ぶ『ふるさと 100 選』」の取組が市内の各小中学校で行われています。

本校でも、ゴールデンウィークや夏休みに Chromebook で写してきた写真を「しらかばホール」に掲示し、全校児童の投票によって１０作品を選びました。さらに、６年生の代表が同じ校区を持つ西陵中学校の代表と重なっている場所などを調整し、最終的には本校から５箇所の写真（地点）を選びました。どの地点のどんな写真が紹介されるのか楽しみにお待ちください。

今年は 10 月 15 日(土)　「学習発表会！」

10 月 15 日（土)、今年度の「学習発表会」を行います。新型コロナウイルス感染症が流行し始めて３回目の学習発表会になります。一昨年は、１学級ずつの発表、昨年は学年単位の１日日程で行い、他の学年は教室でテレビ画面を通して観ました。

今年も基本的には昨年度と同じになります。10 月 15 日１日日程で行います。演目は学年ごとで行います。保護者の皆さんは申し訳ございませんが各ご家庭２名までとさせていただき、完全入れ替え制で行います。少し変わったところと言えば、体育館ステージ側は暗くし、照明効果を生かせるようにすることや、６年生による係活動を行うことです。9 月 27 日からは、学習発表会特別時間割も始まります。各学年では、台本を読み合ったり、役を決めたりと着々と準備を進めています。衣装等でご協力をお願いすることがあると思いますが、よろしくお願いします。

ボス川柳（せんりゅう）

校長企画の「ボスチャレンジ」第三弾として五月一八日からスタートした「ボス川柳」。これまで五回、入賞一句と佳作三句を選出し、校長賞として賞状を渡しました。

また、それ以外の作品も北海道新聞社に送りこれまで五回、北海道新聞の「どうしん川柳」で紹介されました。校長賞とは違う作品が選ばれているのが面白いところです。

新聞掲載の五作品を紹介します。

えほんをね　いっぱいいっぱい　よみたいな
一年　米澤　遥真

なかやすみ　おしりたんてい　よみたいな
一年　阿彦　せりな

サッカーで　シュートを決めて　ハイタッチ
三年　谷川　陽大

夏休み　一番楽しみ　ばあちゃんち
三年　相澤　壮亮

ゆめではね　すべてのくにが　へいわなの
三年　蓮川　りこ

R4　３つの重点「わかったことや思ったことを伝えることができる」
「自分の体を知り、体力向上や健康に気を付ける」「よりよいものを作り出すために協働できる」